

地域通貨の使用体験が公共財供給にもたらす影響 経済実験による考察 *

二村 英夫 ^{a,†} ・ 小川 一仁 ^{b,‡} ・ 高橋 広雅 ^{c,§}

^a広島市立大学国際学部、広島市安佐南区大塚東 3 - 4 - 1

^b大阪産業大学経済学部、大東市中垣内 3 - 1 - 1

^c広島市立大学国際学部、広島市安佐南区大塚東 3 - 4 - 1

2009 年 4 月

概要

20 世紀後半から 21 世紀初頭にかけて、日本では地域振興の一環として「地域通貨ブーム」とでもいうべき状況が存在した。しかし、地域通貨が地域振興にどのような影響をもたらしたかを分析した研究は非常に少ない。このような現状を踏まえ、本研究では地域通貨が地域振興にもたらす影響を公共財供給実験を用いて検討した。特に考慮したのは、地域通貨の特性の 1 つである、貨幣価値が減価する性質である。経済実験から明らかになったことは以下の 2 点である。1 . 減価する性質を持つ地域通貨の使用を体験した者は、通常の通貨を使用する公共財供給ゲームに参加した場合、より高く貢献する傾向がある。2 . 地域通貨の使用を体験した者は、通常の通貨を使用する公共財供給ゲームではただ乗りされるのを嫌って参加しない傾向がある。これらの結果から、通常の通貨を使った公共財供給ゲームでのただ乗りが完全に解消されたわけではない点に注意せねばならない点を考慮してもなお、地域通貨の使用が地域振興に基本的に正の影響をもたらすことが分かった。

キーワード：経済実験 地域通貨 公共財供給

*本稿は科学研究費補助金（基盤研究（C）課題番号:19530281）による研究成果の一部である。

[†]広島市立大学国際学部教授、E-mail:futamura@intl.hiroshima-cu.ac.jp

[‡]大阪産業大学経済学部准教授、E-mail:kz-ogawa@eco.osaka-sandai.ac.jp

[§]広島市立大学国際学部准教授、E-mail:htaka@intl.hiroshima-cu.ac.jp